

印泥とは、書画作品の仕上げ「落款」を押す際に使う、特殊なインクのことです。よもぎを乾燥させた「もぐさ」と、鮮やかな朱を維持するための水銀朱(他に朱砂・辰砂・丹砂ともいいます)、木ロウや松ヤニ等を、中国伝来の特殊な製法で精製した油(ひまし油等が入っているそうですが、詳しくは企業機密になるので分からないようです)で練りこんだペースト状の商品となっています。そのため、気温の変化や湿気・乾燥に弱い特性を持っています。

夏季によく見られる症状・・・溶けて柔らかくなりすぎる場合があります。冷蔵庫にしばらく入れて冷やしますと、元に戻ります。戻らない時は印泥の寿命だと考えて下さい。買い替えをお勧めします。

冬季によく見られる症状・・・低温のため固まり使えなくなる場合があります。ドライヤーを印泥が入っている印合の裏に吹きかけ、十分に温めたあと、よく練ることにより元に戻ります。戻らない場合は、別売りの印泥油を少しずつ混ぜ合わせ練ってお使い下さい。それでも戻らない場合は、寿命だと考えて下さい。

*** 印泥の疑問、アレコレ ***

●陶器製の印合が多いのはなぜ？

印泥に含まれる油分が蒸発しやすいためです。印泥を容器に入れて保管する際、この蒸発を防ぐために、容器の上から木箱に入れて保管することをお勧めしています。ですが、陶器・石器は油の蒸発に特に強いので、印合が陶器・石器製であれば、これに入れておくだけで木箱に入れた時とほぼ同じ効果があるのです。これ以外の容器に入れる場合は、蒸発防止の加工をしてあるかどうか、確認してから購入することをお勧めします。弊社では、輸入のアンティーク商品等があり、加工済みかははっきりと確認出来ない商品が多いため、出来るだけ陶器製のものをお勧めしています。

●価格の違いはなぜ？

色味の違いや、原料・製法の違い等もありますが、水銀朱によるところが大きいようです。これは、水銀と硫黄を焼しめて作られますが、これが純粹(天然)に近いものほど重く、時間経過等による変色が少ないことから、価格が高くなっております。

印泥は使わずに放置しておきますと、印泥中の油分と水銀朱が分離し、どちらかの成分が底に沈んだり、表面に浮かんで来たりします。その状態でご使用頂きますと、落款を押した際に、作品(紙)の裏側に油が染み出してしまふことがあります。お使い頂く前にはもちろんのこと、普段からこまめに練って頂くことによって、長持ちいたします。